

現場でどのようにDXが取り入れられているのかお伝えします。



企業にDX

●埼玉県産業振興公社 (1月14日)

埼玉県が100%出資している埼玉県産業振興公社は、特に中小企業の創業支援から人材育成、販路拡大などの経営課題の解決、新技術開発の手伝いまで幅広く企業のサポートをしています。今回は、最先端のDX導入支援の現状について伺ってきました。

DX導入支援は3タイプ (それぞれ相談員が常駐し、きめ細かいサポートをしています)

オーダーメイド型

1年かけて15回面談を行いながら、経営分析をし「DX戦略」を立て、業務・組織変革まで行う

マッチング型

販売管理や勤怠管理など解決したい課題に対してデジタル技術を提供できる企業から提案を受ける

商業型

キャッシュレス決済やネット販売などの活用を支援する

なかでも、埼玉県産業振興公社に登録している全国約320社のIT企業の中から、解決手段の提案を受けマッチングまでさせる「マッチング型」の支援を行っているのは全国でも埼玉県だけとのこと。相談を相談で終わらせない、解決までもっていく点は、公社が持つ支援メニューの豊富さ、多様さに因るところが大きいと感じました。実際、デジタル技術での解決だけではなく、人材紹介による解決のパターンもあり、人手不足、労働生産性を上げたいといった企業が抱える悩みに対して最適な解決策を提示してくれます。



そして、これらのサポートはすべて無料！ 埼玉県や市・国の補助金活用術も教えてください。

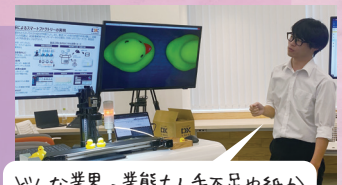
補助金メニューについてはこちら▶

企画財政委員会視察 | やまぐちDX推進拠点Y-BASE (11月18日)

山口県内の企業や自治体を対象として、事業のDX化をすすめるための相談から試行、課題解決まで伴走支援をしてくれる施設です。こちらの特徴は、AI等の最先端デジタル技術を試してDXでの省力化を体感できること。



センサーで映し出された人の感情まで分析をしています



どんな業界・業態も人手不足や紙からの脱却という課題はあり、全ての事業者にDXを推進する余地がある

学校にDX

●県立高校入試 電子出願導入

今年度の県立高校入試から全ての学校が電子出願となります。

家庭

出願:いつでも可

手数料:証紙は廃止→クレジット払い等へ

学校

生徒情報の入力作業がなくなる

●生徒の記録を統一フォーマットへ

県立高校全てに校務支援システムを導入し、生徒の出席、健康の記録、成績などを統一フォーマットで保存できるようになりました。全校共通のシステムがあることで先生方の異動後の負担が減っています。学籍記録は20年保存、学習の記録は5年保存。

●事務作業のペーパーレス化

全県職員も使っているペーパーレス支援ソフトを学校にも適用し、今まで紙に印鑑をもらっていた文化を電子化することで、時間短縮が図られました。

福祉にDX (障害者施設や福祉施設)

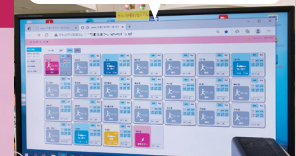
●見守り支援システム導入

ベッドのマットレスの下にセンサーマットを敷くことで、一人一人の心拍数が表示され、寝ているか起き上がっているか、何時に離床したかまでパソコンの画面上で確認できる見守り支援システムの導入により、職員さんの負担を軽減しています。



特別養護老人ホーム
ベッドの下にシステムの機材が入っています

障害者支援施設 嵐山郷



いわゆるロボットの形はしていませんが、これが見守り介護ロボットと言われるものです

DXは、事務作業の時間を減らし、その人の本来の仕事(例えばモノづくり、教育、人と接する、ケアする等)に集中する時間を創り出すという大きな役割を果たしています。生み出された時間で、新しい事業やアイデアも生まれてくるのではないのでしょうか。

